



オリーブを市の新たな地域資源とすることを目指し、オリーブの栽培に取り組んでいる地域おこし協力隊の坪田です。

近年、免疫力向上への関心が高まっていますが、2019年に発生した新型コロナウイルスの蔓延によって世界中でより注目されるようになりました。そうした中、私が栽培に挑戦しているオリーブは、免疫力向上に役立つといわれるポリフェノールが多く含まれており、今後、需要が高まることが予想されます。

いすみ市松丸地先で植樹2年目を迎えた現在のオリーブ生育状況を紹介します。

## ①定植への取組

オリーブの根は末広がり型で地表に近いところに根があります。その為、根が乾燥しやすく強風に弱いところがありました。昨年の台風15号により大半のオリーブが倒れてしまいましたが、定植の仕方を試行錯誤することによってしっかりと根を定植させて生育させることに成功しました。

## ②圃場管理

強風に耐えられるように、木の幹と枝葉の揺れを分散できるように補助・補強しています。また大雨による水はけの悪さを抑えるために、根に空気を入れる作業もしています。地の利の良さから非常に良い生育です。

いよいよ、来年はオリーブの実の収穫の年となります。豊作となるようこれまで以上に力を入れて栽培に取り組んでいきます。

## 地域おこし協力隊とは、

条件不利地域等の地方公共団体が都市地域から地域の活性化に意欲のある人材を「地域おこし協力隊」として受け入れ、地域課題の克服と共に本人の定住化を図ろうというものです。

## 【問合せ先】 いすみ市地域おこし協力隊

大原庁舎（2階）企画政策課内

☎62-1382

